

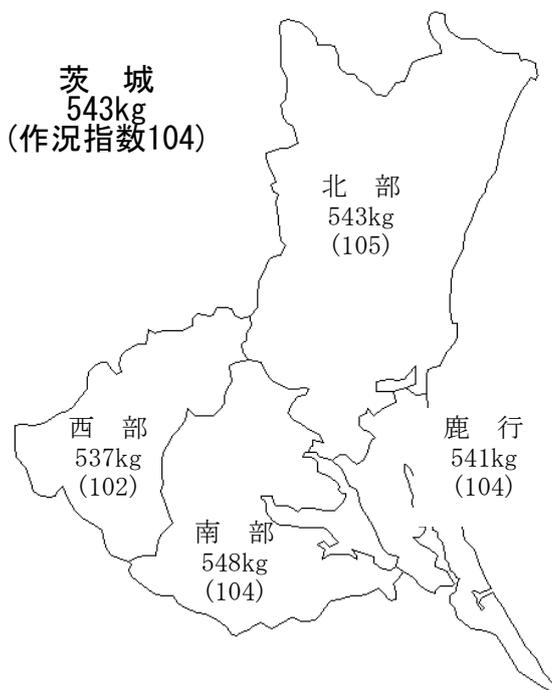
平成25年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (茨城県)

～ 水稻の10a当たり予想収量は543kg(作況指数104)の見込み ～

【調査結果の概要】

- 1 平成25年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は7万7,700haで、前年産並みとなった。
うち、主食用作付見込面積は7万3,600haが見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数がやや多く、登熟が平年並みと見込まれることから、10a当たり予想収量は543kg(作況指数104)が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は39万9,600tが見込まれる。

図 作柄表示地帯別10a当たり予想収量(9月15日現在)



- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積(見込み)である。
- 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率である。
- この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。なお、9月16日に本州に上陸した台風第18号による影響は、現段階で把握できる被害について見込んでいる。

◎ 水稲調査結果の利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産数量目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料 等

◎累年データ

茨城県の水稲の年次別推移

年 産	作 付 面 積 (子実用)	10 a 当 たり 収 量	10 a 当 たり 平 年 収 量	作 況 指 数	収 穫 量 (子実用)	参 考	
						主 食 用 作 付 面 積	収 穫 量 (主食用)
	ha	kg	kg		t	ha	t
平 元	88,700	462	461	100	409,800
2	88,200	490	461	106	432,200
3	87,700	468	466	100	410,400
4	88,600	483	468	103	427,900
5	89,600	406	470	86	363,800
6	91,800	511	470	109	469,100
7	89,900	489	472	104	439,600
8	86,300	518	474	109	447,000
9	86,300	505	479	105	435,800
10	80,700	451	482	94	364,000
11	80,800	508	487	104	410,500
12	80,600	532	498	107	428,800
13	78,900	510	498	102	402,400
14	78,100	524	504	104	409,200
15	77,400	481	508	95	372,300
16	78,500	547	511	107	429,400
17	78,300	532	515	103	416,600
18	78,100	504	520	97	393,600
19	78,200	508	520	98	397,300
20	77,400	537	520	103	415,600	76,400	410,300
21	77,000	522	520	100	401,900	75,800	395,700
22	77,200	521	520	100	402,200	75,400	392,800
23	75,500	521	522	100	393,400	74,600	388,700
24	75,800	540	522	103	409,300	74,000	399,600

資料：農林水産省大臣官房統計部『作物統計』

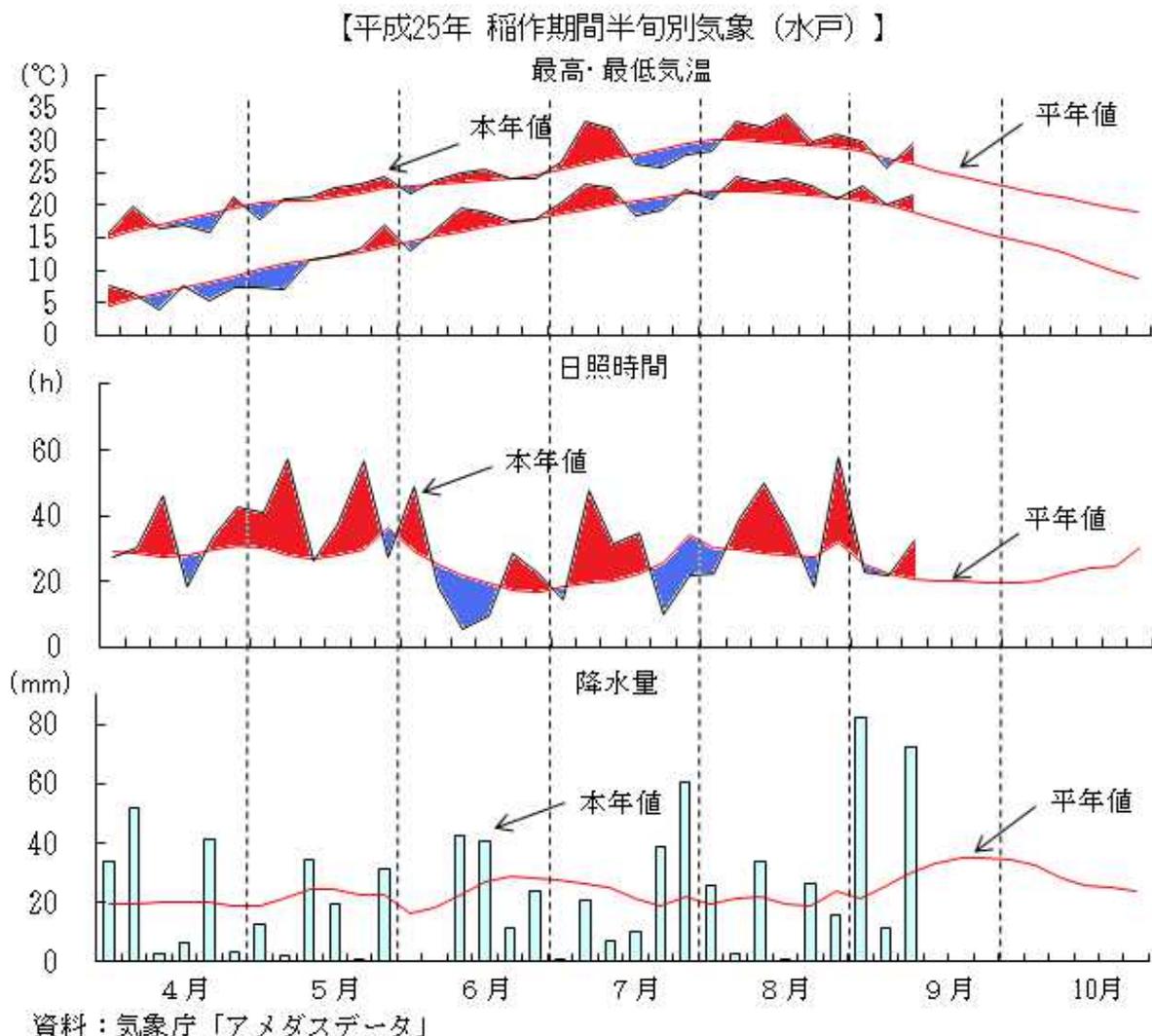
注：1 作付面積(子実用)とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

2 主食用作付面積とは、水稲作付面積(青刈り面積含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積である。

3 「…」は事実不詳又は調査を欠くことを示している。

【調査結果】

- 1 水稲の作付面積（青刈り面積含む。）は7万7,700haで、前年産並みとなった。
- 2 9月15日現在における水稲の作柄表示地帯別の作柄は、北部及び鹿行では、幼穂形成期の天候に恵まれ1穂当たりもみ数がやや多くなったことから、全もみ数がやや多くなり10a当たり予想収量は北部が543kg（作況指数105）、鹿行が541kg（同104）が見込まれる。
南部では、早生種を中心に穂数がやや多かったことに加え、北部及び鹿行と同様に1穂当たりもみ数がやや多かったことから、全もみ数は多くなり10a当たり予想収量は548kg（同104）が見込まれる。
西部では、1穂当たりもみ数がやや多いものの、全もみ数は平年並みとなったことから、10a当たり予想収量は537kg（同102）が見込まれる。
この結果、茨城県の10a当たり予想収量は543kg（同104）が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は39万9,600tが見込まれる。



【統計表】

1 水稲作付面積及び10a当たり予想収量（9月15日現在）

区 分	作付面積 (青刈り面積を含む。) ha	前年産との比較		10a当たり 予想収量 ① kg	10a当たり 平年収量 ② kg	作況指数 ③ = ① / ②	参 考	
		対 差 ha	対 比 %				主食用作付 見込面積 ④ ha	予想収穫量 (主食用) ⑤ = ① × ④ t
茨 城 県	77,700	0	100	543	522	104	73,600	399,600

注：主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）である。

2 水稲の作柄概況（9月15日現在）

区 分	10a当たり 予想収量 ① kg	10a当たり 平年収量 ② kg	作況指数 ③ = ① / ②	平 年 比 較			
				穂 数 の 多 少	一 穂 も み 当 た り の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否
茨 城 県	543	522	104	平年並み	やや多い	やや多い	平年並み
北 部	543	516	105	平年並み	やや多い	やや多い	やや良
鹿 行	541	519	104	やや少ない	やや多い	やや多い	平年並み
南 部	548	526	104	やや多い	やや多い	多い	やや不良
西 部	537	525	102	やや少ない	やや多い	平年並み	やや良

注：本表の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較であり、表示区分は、「多い(良)」が対平年比106%以上、「やや多い(やや良)」が同102~105%、「平年並み」が同99~101%、「やや少ない(やや不良)」が同95~98%、「少ない(不良)」が同94%以下である。

3 水稲出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

区 分	出 穂 期						刈取済面積 割 合 %
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較			
				対平年差	対前年差		
茨 城 県	7. 19	7. 31	8. 11	3日早	3日早	69	
北 部	7. 22	8. 4	8. 20	3日早	3日早	40	
鹿 行	7. 18	7. 30	8. 10	4日早	3日早	90	
南 部	7. 15	7. 29	8. 6	2日早	1日早	82	
西 部	7. 21	7. 29	8. 7	5日早	6日早	70	

注：出穂期の始期、最盛期、終期とは、出穂済の面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲作柄概況調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

なお、県内における作柄表示地帯の区分は次のとおりである。

区 分	区 域
北 部	水戸市、日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市 笠間市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市 小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村、大子町
鹿 行	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
南 部	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市 守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市 美浦村、阿見町、河内町、利根町
西 部	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市 桜川市、八千代町、五霞町、境町

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：1,350単位区 巡回・見積り：44市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆調査：280筆 作況基準筆調査：15筆 巡回・見積り：44市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。

(2) 作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。

(2) 「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。

(6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

(7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。

(8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。

9 その他

本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

10 利用上の注意

（1）統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2 桁		1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

（2）表中に用いた記号は以下のとおりである。

「…」：事実不詳又は調査を欠くもの

- この統計調査結果は、関東農政局ホームページ中の「統計情報」に掲載しています。
アドレス【http://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/】

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先：関東農政局水戸地域センター 農政推進グループ生産流通統計チーム

電話：029 (231) 2266 内線511

FAX：029 (227) 1535

担当者：平井、原田



漁業センサス

平成25年11月1日現在で、2013年漁業センサスを実施します。
(流通加工調査については平成26年1月1日現在)

調査員がお伺いしましたら、ご協力をお願いします。

漁業センサスホームページURL：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/fc>

漁業センサスに関するお問合せ先は

連絡先：農林水産省 大臣官房統計部 経営・構造統計課
センサス統計室 漁業センサス統計班

電話：03-3502-8467

FAX：03-5511-7282